今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇5月12日～

先週はFOMC後の会見でパウエル・FRB議長が利下げを急いでないと発言し、日米ともに金融政策に変化なしとなりました。
関税の影響がわからない中で、日米ともに今後出てくる経済指標などを確認しながら慎重に金融政策を決めていくしかない状況なのでしょう。
米国の利下げが見送られたことでドルは底堅い動きとなっています。
また、貿易交渉の進展が見られるとの期待もあり、株価は上昇し、リスクオン相場が継続しました。
英国が初めて関税交渉で合意したと８日に報じられました。
相互関税の10％は維持したまま自動車や鉄鋼・アルミ製品については、一定量の枠内で関税を引き下げるということです。
自動車は 10 万台までは 10％の関税、鉄鋼・アルミには関税をかけないという内容です。
そして、英国は米国からの輸入車への関税引き下げやデジタル課税の緩和などを行なうようです。
しかし、米国の安い牛肉や農産物が英国に輸入されることになると英国経済がどうなっていくのか不安もあります。
もともと米国から見て英国は貿易赤字国なので、貿易では英国の方が苦しい状況なのです。
日本やアジアは米国から見て貿易黒字国なので、この交渉はあまり参考にならないと思います。
さらに、中国との貿易交渉の行方にも注目が集まっています。
米国の対中関税は145％、中国の対米関税は125％という異常な関税の引き下げは行なわれるのでしょうか。
トランプ大統領は「80％の関税が正しいようだ。ベッセント財務長官次第だが」とSNSに投稿していますが80％の関税だと貿易が停止している状態に変化がないと思います。
とても持続可能な数字とは思えないからです。
関税が完全に元の状態に戻るのは難しいと思いますが、どの程度で話がまとまるかは日本やそれ以外の国にも影響があるためニュースはしっかり見ていきたいです。
さらに、EUと米国の関税交渉がどうなるかも重要です。
英国と違って、EUとの交渉は難航する可能性があります。
先週まで相場が期待感で上がり続けているため失望が広がると流れが急に変わるかもしれません。
ある程度の調整は想定しながら取引していきたいです。
今週は、米国で消費者物価指数や卸売物価指数などインフレ関連の指標発表があります。

Copyright©（有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

先週のドル／円は146円台を回復し、3 週連続で週足が陽線となっています。
146 円台は 1 月初めの高値158．8円あたりから引いた上値抵抗線（レジスタンス・ライン）がきているため147円手前で失速すれば反落リスクも出てきます。
147 円を超えてくれば 148．3円あたりが視野に入ってきます。
下値は144円を維持できれば堅調な動きが期待できそうですが、割り込んでくると142．3円あたりのサポートが意識されます。
142円を割り込むと、再び140円割れのリスクが高まるため注意がいります。

＜気になるクロス円＞

クロス円もほとんどのペアで先週は堅調な動きが続きましたが、上値が重くなってきているペアもあり、今週はピークをつけて下落に転じる可能性もあります。
日足で見て、安値更新の動きがでれば警戒した方がよさそうです。
ユーロは昨年の秋以降、週足で見るとレンジ相場（154～166円程度）のような動きになっているためレンジを超える動きが今後出てくるかにも注目したいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では3月貿易収支、1－3 月期GDP（速報値）などがあります。
米国では4月月次財政収支、4月消費者物価指数、4月卸売物価指数、4月小売売上高、5月ニューヨーク連銀製造業景気指数、5月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、パウエル・FRB議長発言、4月鉱工業生産、5月NAHB住宅市場指数、4月住宅着工件数，5月ミシガン大学消費者信頼感指数、3月対米証券投資などが発表されます。
欧州ではドイツとユーロ圏で5月ZEW景況感調査、ユーロ圏で 1－3 月期GDP（改定値）、3月鉱工業生産、ドイツで4月消費者物価指数などがあります。
ほかには、英国で 1－3 月期GDP（速報値）、3月GDPの発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved